

P8311206.JPG 2019/0706

元治元年十二月三日より元治元年十二月九日まで

P8311206 right

出 殿、京地■【文字判読不可】■過日二通の返書(廿八日附)出す、五郎生来りし旨、函館

小出より雁書届き

水豹(*1)皮を贈らる、山本(長)来る、酒飯を設く

四日未 晴漸陰

出 殿、薙刀師門人老員を携へ稽古に来る、藤山稽古に来る、松霞より恒川才助心願書(*2)籠書同人身分の義、頼越し且蒸菓子二箱を贈らる

五日申 雨、朝雷両三声、午前又雷、乍晴、雲、風

出 殿、黄窪より五郎の外、挙家一同来り、模様衣配分の一なりとて鍬児へ晒惣模様を贈らる
其外、鮭一尾蒸菓子、柑子等許少を持参、亨易□■、初て来れるにて、彼是の謝の意を

兼るの意あり、酒肴等を設け絞り縮緬小切を□為てふ両児を遣す

六日酉 晴

P8311206 left

松盛斎稽古に来る、小品を贈らる、荒木(□)来り志願筋縷々説述す、出 殿、保三来る、
(菊池より約の酒樽を為持越す)

七日戌 晴

宅調、五郎次来り、吉川幸七郎跡目願の振合□り度旨、京地織田(市)より申越す趣に付、即時
吉川へ文通を以、問合せ遣す、保三来る、即時帰り、細谷(秀)来る、三河守家来鞍□某聞合事
有し

来る、不面、□来して談し遣す、辻番廻り場内に突棒(*3)一柄□有し趣届出に付、監察新庄右近
へその段、

使者を以相届く年番に付取扱ふ旨也、白石へ兼約の白羅紗□書、羽おり地受取に遣す

八日亥 晴風烈

おたと汁てふ設あり、

新組模、左衛門悴□吉初て来り、面す(上等)、別手出役宗、田(三)同道(凡也)、出 殿

九日子 晴

因幡守殿邸おいて、■ミニストル第十時より製鉄所の儀に付、対話有し、泉豊両閣老飛驒守殿御出

*1:水豹(すいひょう)、アザラシのこと

*2:心願書、願いを書き祈禱される

*3:突棒(つくぼう)、捕り物道具の一種

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。